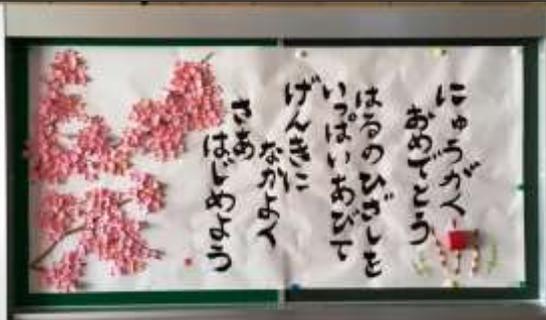


明日も元気で来いよ！



今年度も どうぞよろしく

1年生の入学、そして始業式を待っていたかのように、桜がまだ美しい花姿を見せてくれています。中庭のハナミズキのつぼみも膨らんできました。

若葉が萌え、花が咲き、鳥が歌い舞

う…すべての命がいきいきと輝く季節がやってきました。

歴史と伝統ある西天満小学校の校長として、6回目の春を迎えました。昨年度末に「定年」という一つの区切りを迎え、今年度は再任用校長として、また新たなスタートです。

物事を動かし始めるには大きなエネルギーがいる。でも、一旦動き始めるとスムーズに動き出す。これは、慣性。もう少しすると、慣れが出てきて、今まで通りこなすことが中心になる。これは、惰性。慣性と惰性は似て非なるもの。この違いをしっかりと意識して物事に当たりたい。大阪教育大学 林教授（当時）の講演より

同一校で校長を6年も務めさせていただける例は、あまりありません。それだけに、私の責任は、非常に大きいと考えております。「惰性」に流されることなく、西天満小学校の子どもたちのために、自分を研ぎ、本校の教育をさらに素晴らしいものとして深化充実させるべく、努力いたします。

この校長室だより「明日も元気で来いよ」も西天満小学校で通算114号を数えます。今年度も、子ども達のよいところをどんどん発信してまいります。この校長室だよりを通して、皆様も、西天満小学校のこと、子どもたちのがんばりをこれまで以上に深く知っていただきたいです。そして、西天満小学校の大ファンになっていただきたいと願っています。

子どもにとって、うれしいことは、自分のがんばりを認めてもらえることです。そのことで、子どもは、達成の満足感や充実感を持ち、やがて自分に自信を持つようになります。

認める…ほめる…励ます…教育の原点

そして、その自信が物事への意欲を呼び起こすことにつながります。意欲を持って物事に取り

組んで、そのことをまた認められると、さらに自信を持ち、また意欲がわいてきます。子どものがんばりを認めることは、教育の原点だと考えています。

今日の始業式で、新しい担任を発表しました。ご家庭でも、話題になったことでしょうか。どうか、子どもたちが意欲をもって、笑顔で学校に登校できますよう、声をかけてあげてくださいますようお願いいたします。

今年度も教職員が心をひとつにして、全力で子どもたちの教育に取り組んでまいります。どうぞよろしくをお願いいたします。

タイトル 「明日も元気で来いよ！」 について

この校長室だよりのタイトルを「明日も元気で来いよ！」としたことについて、今年度の第1号ですので、再度、お伝えします。

今から38年前。私が初めて教職についた学校でのことです。私は5年生を担任していました。ある日の放課後、1年生の子どもが交通事故にあって、意識が戻らないまま長い間入院し、ついには亡くなってしまったのです。自分のクラスの子ともではないにしろ、ついさっきまで元気な笑顔でいた子どもが、突然いなくなる。悲しい、くやしい、…胸がはりさけるような思いでした。

そんな事故があってから、私は、自分の学級やその他、子ども達と「さようなら」のあいさつを交わすときには、必ず「明日も元気で来いよ！」ということにしていました。交通事故に気をつけて。病気をしないで。不審者に注意して。…明日も元気で明るい笑顔を見せてほしい。そんな、祈りにも似た思いをこめて子ども達を学校から送り出してきました。

学校は、みんなの居場所ではなくてはなりません。全ての子どもが安心して来てほしい。この気持ちは、今でも変わりません。変わるなどありえません。

私のこのような思いを西天満の子ども達に、そして保護者や地域の方々にも伝えたい。そう思って、校長室だよりのタイトルを決めました。

「明日も元気で来いよ！！」今日も、この気持ちを胸に、子どもたちを学校から送り出したいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

明日も元気で来いよ

